

1 研究の概要

(1) 研究テーマ

学習状況調査から見える中学校国語科における課題の解決に向けた授業改善
 - 「読むこと」の領域において -

(2) テーマ設定の趣旨

本県では、学習指導要領に示されている目標や内容の定着状況等を把握し、指導の充実や学習状況の改善に役立てるため、4月に全国学力・学習状況調査の実施に合わせて、佐賀県小・中学校学習状況調査(以下、県調査)を行うとともに、12月にも県調査を行っています。これらの調査結果を受け、更なる指導の充実と改善が求められています。

平成26年度の佐賀県小・中学校学習状況調査Web報告書では、中学校国語科の課題として、「条件に合わせて自分の考えをまとめて書く」ことが課題として挙げられています。特に、「読むこと」の領域に関わって、書かれていることを読み取り、筆者の考えに対する自分の考えを書く設問(2年生、説明的な文章)においては、「おおむね達成」の基準を7.8ポイント下回っており、無解答率も28.2でした。また、表現の特徴を捉えて自分の考えを書く設問(1年生、文学的な文章)においては、正答率は「おおむね達成」の基準を上回っていたものの、無解答率は10.6という結果でした。

これらの問題を解決するために、「読むこと」の領域の「自分の考えの形成」に関する指導事項の定着という視点から、「文章を解釈すること」「自分の考えをもつことや考えをまとめること」「考えたことを表現すること」という3つの段階に分けて捉える必要があると考えました。

そこで、本研究では、「読むこと」の領域における「自分の考えの形成」に関する指導事項に焦点を当てた授業改善策を探ることにしました。そのために、県調査の誤答傾向を分析し、生徒のつまずきの段階を明らかにする必要があると考えました。そして、明らかになったつまずきの段階を課題として、その解決に向けて、ものの見方や考え方を広くしたり、知識や体験と関連付けて自分の考えをもったりするを通じた指導法の工夫について検討していくことにしました。このようにして、学習状況調査から見える課題を解決したいと考え、本研究の目標を設定しました。

(3) 研究目標 【1年次】

「読むこと」の領域における課題の解決を図るため、学習状況調査の結果から生徒のつまずきの段階を明らかにし、「自分の考えの形成」に関する指導事項に焦点を当てた授業改善策を探る。

(4) 研究内容

- ア 佐賀県学習状況調査等の結果について、過去の報告書に示されている課題と、平成27年度[4月調査]の分析を基に、国語科の課題を探る。
- ・領域別の課題（読むことを中心に）
 - ・授業づくりの課題
- イ 実態把握で得られた課題の解決を図るため、検証授業を通して、より良い国語科学習指導の在り方を探る。
- ・学習計画表の活用と生徒の主体的な学習
 - ・「学習用語」を生かした指導と振り返りの充実